八木　一郎

《担当講義》
□情報メディア
□ジャーナリズム論
□情報と社会
□コミュニケーション
□マスメディア論

《研究テーマ》
□マスメディア
□報道と世論
□メディアリテラシー

《プロフィール》
□出身県:広島県
□血液型:A型
□星座:さそり座
□好きな言葉:一期一会

《主な履歴》
□広島大学卒業後、山陽新聞社に入社。東京支社編集部長、論説委員会主幹などを経て2015年から理大へ

今こそ、読む力を積み、考えを深める。

―先生の研究テーマを教えてください。

長く新聞社に勤めてきたことから、メディア全般を研究対象にしています。情報と社会の関係やマスメディアの歴史、コミュニケーションの変遷など幅広く考えていきます。

メディアは私たちが社会のさまざまなことを知るための媒体であり、生活するうえで欠かせないものです。インターネットで手軽に情報を得ることができるようになりましたが、新聞やテレビといったマスメディアの役割も重要です。

今日のような情報があふれる社会で、私たち1人1人が情報をどう取捨選択していくかは、大きな課題です。多くの情報の中から、学び、考え、判断力を身に付けていくことは社会を支えていく市民として重要なことです。そのためにもメディアのそれぞれの特性を知り、上手に活用していくことが求められます。研究対象として興味は尽きません。

―どうして新聞社に就職したのですか。

私が就職した約40年前は、新聞、放送、出版といったマスコミ業界はあこがれの職業でした。大学まで広島で過ごし、隣の岡山県の山陽新聞社に就職することができました。岡山市の本社での勤務以外にも玉野や広島、倉敷、東京で支社勤務も経験しました。

―新聞社ではどのような仕事をしてきたのですか。

記者として記事を書き、経験を積んでからはデスクとして原稿をチェックするなど、一貫して新聞編集の仕事をしてきました。主に政治や行政分野を担当しましたが、支社では事件事故、経済、文化芸能、スポーツなどもやりました。取材で多くの人に会い、さまざまな分野を経験できたことは、社会勉強になりました。

マスコミで仕事をする面白さは、やはり最前線の現場で、いち早く情報を知ることができるということでしょう。記事には締め切り時間があります。その制約の中で、刻々と変わる状況を編集していく作業は緊張感を伴います。それが毎日続くのですから、大変な職場ではありますが、日々新聞という形で、読者の元に届けられるということは充実感も大きなものがあります。

―学生に何を伝えたいですか。

今やネットは日常欠かせないものになっており、うまく活用していくことは大切です。ただ、新聞や本などの従来からある活字メディアにもしっかり親しんでもらいたいです。

「読む」ことはテレビやラジオを見たり、聞いたりすることに比べて、意識的にやろうとしなければ続かないし、内容を理解するために集中力や思考力を働かせなければなりません。これからの長い人生で、家庭であれ、会社であれ、物事を理解し、的確に判断していける社会人であってほしいと思います。そのためには文章を読みこなせる力が必要です。それは新聞記事のような簡潔な文章から、エッセーのような短編、中長編の小説など、さまざまな文章に接する中で、培われていくと思います。若いころから文章を読むトレーニングを積むことで、「読む力」がつき、考えを深めていくこともできるようになり、「書く力」へとつながっていくでしょう。

相手の話を聞いて、その内容をしっかり理解し、さらに自分の考えをまとめたり、判断をしていく。社会に出ればそういう局面の連続です。今のうちからぜひ、「読む力」を身に付けて欲しいと思います。

―趣味は何ですか。

映画ですね。最近は映画館まで出掛ける時間がないのですが、若いころは「映画が恋人」でした。年間で200本以上の映画を映画館で見た時期もあります。仕事が忙しくなるとそうもいきません。テレビが大型化し、DVDがレンタルできるようになって、最近はもっぱら家庭で鑑賞することが多いです。

好きなジャンルはミュージカルやコメディー、ロマンス、歴史物、実録物などですが、夢があって感動できる作品がいいですね。もともと音楽が好きなので、特にミュージカル系は大好きです。演劇でもミュージカルは好きで、特に宝塚歌劇は夢のような世界を体験できます。

―岡山はどのようなところですか。

広島で生まれ育ち、就職して岡山に来たのですが、同じ山陽地方で温暖な気候に恵まれ、山海の幸に恵まれた暮らしやすい所だと思います。特に岡山は大きな災害も少なく、中四国の交通の結節点として発展していく潜在力を持っています。地元の人たちがこの良さをもっと知り、若い人たちも誇りを持って暮らせる地域にしていきたいものです。